

平成 24 年度事業報告

平成 24 年 4 月 1 日に「公益社団法人日本精神神経科診療所協会」となり、1 年間、地域精神保健医療福祉の発展・向上をめざし下記の事業に取り組んでまいりました。

【 公 1 】 地域精神保健医療福祉の更なる向上を支援するための諸事業

1. 診療所における地域精神保健医療福祉事業についての調査・研究

(1) 地域精神科医療を取り巻く諸問題の現況分析のためのアンケート調査事業

臨床現場での治療・診断、また先端の医療情報など精神科医療に関する最新情報を調査・分析を行うとともに、報告書を通して地域に役立つ情報提供ができた。

A : 精神科診療所における自殺実態調査・研究報告書作成事業

担当：埼玉県精神神経科診療所協会

実施日程：通年

発行部数：2000 部

配布先：会員、関連機関

(2) 地域精神保健医療向上を図るための全国診療所現況検討・調査事業

医療制度体制等を調査することにより、診療所の状況、外来患者の状況を把握し、医療制度の向上について研究する。また、調査を通し日々改訂される医療制度に対し、日精診としての精神科医療の在り方、今後の医療制度の問題点への指摘・提言することで、精神保健医療向上を目指す。

A : 医療制度関係調査

担当：医療制度対策・医療経済委員会

内容：通院・在宅精神療法、障害者自立支援法、介護保険、救急医療、専門医制度等諸制度の現状に関する調査

実施：平成 25 年 1 月 24 日 全会員対象(1584 名) 返却数 900 名 回収率 56.8%

情報提供先：厚生労働省、会員、関連機関

B : 医療制度関係調査(医療制度対策・医療経済委員会)

内容：うつ病などに対するかかりつけ医から精神科診療所への紹介の実態等に関する調査

実施：平成 25 年 1 月 25 日 地区会長・役員対象(58 名) 返却数 47 名 回収率 81%

情報提供先：厚生労働省、会員、関連機関

C : 精神科診療所協会としてのビジョン・今後の精神科医療の在り方についての検討事業

我々精神科診療所協会としてのビジョン(精神科診療所が真の地域医療としてなくてはならない存在であること) について行政・精神科病院等々に広く表明発信するため、様々な角度からのアンケート調査・研究をとおし、実証する事。診療所協会としての姿勢や今後の精神科医療の在り方についての方向性や問題提起をしていくことが決定され、下記2つのプロジェクトチームが発足された。

(1) 自殺対策プロジェクトチーム

(2) 精神科診療所から見た精神科医療のビジョンを考えるプロジェクトチーム

委員を募り、今後の方針等を決定。

(3) 精神科医療現場で活用できる患者支援のためのシート・ソフト開発等の研究事業

これまで、行ってきたシート・ソフトの開発事業をさらにバージョンアップすることで、患者

支援、現場支援につなげ精神保健医療向上につなげることができた。

A：診断書ソフト 開発（継続）

担当：情報システム委員会

実施：希望者へ診断書ソフトを配布、また、平成26年度の診療報酬改定に対応するための準備

日程：通年

B：NSS サービス研究事業（継続）

当協会独自の「日精診版 社会生活支援（NSS）サービスシート及びCD開発・普及を続けることにより、現場医療職員への支援向上、患者への支援サービスにつなげてきた。また、全国研修会を開催することで、シート・CDの普及にも貢献。

担当：地域福祉・デイケア委員会

実施：委員会でのシート・CD研究・開発を行った。

日程：開発：通年

全国研修会：平成25年2月3日（日）10：00～16：30 AP品川 ABC会議室

参加者数：60名

講師：伊藤順一郎（国立精神・神経医療センター精神保健研究所社会復帰研究部部長）

テーマ：ACTの経験から診療所に期待すること」

成果・活用：医療・福祉関係者に広く利用されていて、研究会を通して改良を行うことができた。

2. 精神保健福祉及び精神科医療に関する正しい知識の普及及び相談事業

（1）地域精神医療保健福祉の向上に関する講演会開催事業

認知症や統合失調症等に対する一般市民への正しい精神医学の啓発、及び自殺対策、うつ病予防などの精神医学的、社会的問題への寄与、障害者を抱えた家族への啓発を行った。

A：公開講座「どんとこい！認知症VI」

担当：認知症等高齢化対策委員会

実施：平成24年11月3日（祝土）12：45～17：00 新宿明治安田生命ホール

参加者数：209名

特別講演：「認知症の正しい理解に向けて—ご本人を中心としたより良いケア—」

講師：長谷川和夫（認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長）

シンポジウム：「重度認知症患者デイケアの役割」

シンポジスト：三原伊保子、宋仁浩、古家宏志、ご家族、

B：公開講座「第6回産業メンタルヘルス講演会」

担当：産業メンタルヘルス関連委員会

実施：平成24年9月23日（日）13：15～16：35 新宿明治安田生命ホール

参加者数：321名

特別講演：「主治医と企業の連携を求めて」

講師：廣尚典（産業医科大学産業生態学研究所精神保健医学教授）

シンポジウム・総合討論：「現場で困る『うつ』の事例への対応」

シンポジスト：才藤真市、横山太範、畑中純子、林剛司

C：公開講座「第4回みんなでかたろう！女性のメンタルヘルス」

担当：女性の精神科医療を考える委員会

実施：平成25年1月20日（日）13：30～16：15 新宿明治安田生命ホール

参加者数：154名

特別講演：「これって更年期？—女も男も・夫も妻も—」

講師：「婦人科の視点から」東館紀子（東京女子医科大学付属成人医学センター 婦人科准講師）

講師：「泌尿器科の視点から」前田佳子(東京女子医科大学付属 青山病院 泌尿器科部長)
講師：「精神科の視点から」小林 和(精療クリニック小林 院長)
シンポジウム：大田垣洋子(指定討論)、東館紀子、前田佳子、小林和、

D：公開講座「第3回子どものこころの健康を考えるシンポジウム」

担当：児童青少年問題関連委員会

実施：平成25年1月27日(日) 12:45~16:30 AP品川 JKLM会議室

参加者数：244名

特別講演：「青年期の障がいの理解と援助」

講師：「青年期の発達障がいについて」田中康雄(こころとそだちのクリニックむすびめ院長)

講師：「大学生の相談支援の実際」若山隆(日本福祉大学 学生相談室 臨床心理士)

講師：「大学生の発達障がいの自助グループについて」

早川徳香(南山大学 総合政策学部専任講師 NSC 保健室長 児童精神科医)

講師：「発達障がいを持つ青年の支援の現状」

石橋悦子(東京都発達障害者支援センター 主任支援員)

ディスカッション：大瀧和男(指定討論)、田中康雄、若山隆、早川徳香、石橋悦子、

E：公開講座「第2回自殺予防対策講演会」

担当：自殺対策プロジェクトチーム

実施：平成25年2月24日(日) 13:30~17:00 新宿明治安田生命ホール

参加者数：248名

特別講演：「過量服薬・大量服薬と自殺予防」

講師：「過量服薬・大量服薬と自殺をめぐる」 林直樹(東京都立松沢病院 精神科部長)

講師：「過量服薬・大量服薬 処方薬依存の視点から」

田島治(杏林大学保健学部 教授 精神保健学)

総合討論：里村淳(指定討論)、林直樹、田島治、

(2) 各地区で展開されている講演会・相談会事業に対する助成事業

各県精神神経科診療所協会等で開催されている一般市民対象の講演会・相談会への助成を行った。

A：普及啓発事業

1. 講演会相談会「宮精診メンタルヘルス講演会」3回(24.7.7、24.12.15、25.3.16) 宮城精診共催
2. 講演会相談会「第6回宮城産業メンタルヘルス講演会」(25.1.26) 宮城精診共催
3. 講演会相談会「認知症フォーラム・こおりやま」(24.10.4) 福島精診共催
4. 講演会「毎日がアルツハイマー～認知症の母が一番しあわせに見える～」(25.3.10) 群馬精診共催
5. 講演会「働く人のメンタルヘルス～復職をめぐる」(24.11.25) 埼玉精診共催
6. 講演会「認知症の治療戦略を学ぶ—薬物療法と非薬物療法の効果的な組み立て方」(25.3.24) 東精診共催
7. 講演会相談会「東日本大震災復興支援講演会
被災者のメンタルケアにどう取り組むか」(24.11.25) 神奈川精診共催
8. 講演会「—診療所からの生活支援・現場からの報告」(25.3.30) 静岡精診共催
9. 講演会「～みんなで学ぼう心の教室～」(25.3.3) 愛精診共催
10. 講演会「がん患者の精神症状の評価とマネジメント」(24.11.24) 愛精診共催
11. 講演会「大人の発達障がいの臨床」(24.11.24) 滋賀精診共催
12. 講演会「第26回産業精神保健学術講演会」
～ポジティブメンタルヘルスの視点で職場環境を考える (24.10.25) 大精診共催
13. 講演会「市民講演会」(24.9.13、24.10.5、24.10.17、24.10.27、24.11.19、
24.12.6、24.12.7、25.1.22、25.3.14、25.3.14) 大阪精診共催
14. 勉強会「児童虐待防止に関する勉強会」6回開催

- (24. 5. 31、24. 7. 19、24. 11. 16、25. 1. 11、25. 1. 22、25. 3. 8、) 大阪精診共催
15. 講演会「ハートフェスタ ～心と心のふれあい広場～」 (24. 11. 3) 兵庫精診 (後援)
16. 講演会と相談会 第5回「どんとこい！認知症2013in 福岡」 (25. 3. 3) 福岡精診共催
17. 「こころの病」理解のために-みんなの集い- (25. 2. 16) 福岡精診 (後援)
18. 研修会「第8回児童・思春期関連問題研修会」 (24. 3. 25) 福岡精診共催
19. 講演会「自傷行為の理解と援助～故意に自分の健康を害する若者たち～」 (24. 5. 13) 宮崎精診共催

(3) 地域の精神保健医療福祉の向上を図る精神保健無料相談及び電話相談への助成事業

精神科医療をより身近に感じてもらい、気軽に相談してもらうことを目的とした一般市民対象相談会事業に対して助成を行った。

A：街頭相談

1. 専門医によるこころの健康なんでも相談 (24. 6. 10・24. 9. 9) 大阪精診共催
2. 第18回こころの健康よろず相談 (24. 10. 28) 広島精診共催

B：電話相談

1. 専門科医によるこころの電話相談 (24. 4. 1～25. 3. 31) 東京精診共催

(4) 精神保健医療に関する情報提供のための啓発冊子(ブックレット)発行事業

一般市民を対象に精神保健医療に関する情報を提供することにより、精神保健福祉分野における正しい知識や地域の精神保健、医療、福祉に関する情報の普及啓発を図る。

A：ブックレット発行事業

特集：「産業メンタルヘルス－シンドロームで気づき、クリニックへつなぐ－」

執筆(夏目誠：大阪樟蔭女子大学大学教授、産業ストレス学会理事長)

発行部数：40000部発行

配布先：会員診療所、各地区協会、精神保健福祉センター、保健所等

3. 精神保健医療福祉に関する教育研究及び広報事業

(1) 地域精神医療保健福祉を担う医師への専門的知識の普及・技能の向上を目的とした研究会・勉強会事業

精神科医として精神疾患の診断・治療技術の向上、及び地域社会における活動の方法、地域精神保健医療福祉への貢献の在り方などについて研究会・勉強会を行い、国民の精神保健の向上に貢献。

A：学術研究会(福岡県精神神経科診療所協会共催)

実施：平成24年6月23日(土)～24日(日) 北九州国際会議場

参加者数：352名

テーマ：「私たちは何処から来たのか、私たちは何者か、私たちは何処へ行くのか」

特別講演、メインシンポジウム、分科会等

B：第4回司法精神医学講演会

担当：医療観察法等検討委員会

実施：平成24年4月1日(日) 12:30～15:30 東京八重洲ホール201会議室

参加者数：30名

講演：「医療観察法から見た刑事司法鑑定」

講師：岡田幸之(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 司法精神医学部長)

C：第5回司法精神医学講演会

担当：医療観察法等検討委員会

実施：平成25年3月24日(日) 13:00～15:30 AP品川 JK会議室

参加者数: 47名

講演: 「医療と保安～他害行為と精神障害、医療観察法、保安処分～」

講師: 中島直(多摩あおば病院 副院長・診療部長)

D: 第5回勉強会

担当: 医療観察法等検討委員会

実施: 平成24年9月30日(日) 10:00～12:00 AP品川 PQ会議室

参加者数: 9名

講演: 「発達障害と鑑定」

講師: 来住由樹(岡山県精神科医療センター 副院長)

E: 第2回医療観察指定通院医療機関連絡会議・勉強会

担当: 医療観察法等検討委員会

実施: 平成24年10月21日(日) 8:00～9:00 ホテル松島大観荘

- (2) 地域精神医療保健福祉を担う診療所コメディカル及び医療機関従事者への専門的知識の普及・技能の向上を目的とした研究会・勉強会事業(医療及び精神保健福祉関係機関従事者対象)
精神疾患の診断・治療技術、精神科医療従事者の地域社会における活動の方法、地域精神保健医療福祉への貢献の在り方などについて研究会・勉強会を行い、国民の精神保健の向上を目的とする。

A: 第13回チーム医療・地域リハビリテーション研修会: 松島

担当: 宮城県精神神経科診療所協会

実施: 平成24年10月20日(土)～21日(日) ホテル松島大観荘

参加者数: 279名

テーマ: 「松島で今を語る」

記念講演、震災報告、シンポジウム、分科会等

B: 各地区症例検討会: 児童青少年問題関連委員会

①担当: 埼玉県精神神経科診療所協会

実施: 平成25年2月28日(木) ガーデンパレス熊谷 会議室

参加者数: 10名

テーマ: 「施設での治療の紹介・児相・クリニック等地域との連携」

講師: 早川洋((社福)慈徳院 こどもの心のケアハウス嵐山学園診療部長)

②担当: 滋賀県精神神経科診療所協会

実施: 平成25年3月10日(日) ホテルポストンプラザ草津

参加者数: 15名

テーマ: 「児童青年期の自殺未遂事例」

講師: 精神科救急ブロック毎の症例検討

③担当: 広島県精神神経科診療所協会

実施: 平成24年11月6日(火) 19:00～20:30 RCC文化センター603会議室

参加者数: 11名

テーマ: 「思春期事例3例」

講師: 松田文雄(松田病院院長)

C: 各地区開催の会員・医療関係者対象研修会(各県精神神経科診療所協会)

1. 研究会「第11回北海道精神科リハビリテーション研究会」

(24.10.13) 北精診共催

- 2. 講演会「東北精神科診療所医の会」 (24. 6. 30) 山形精診共催
- 3. 講演会「自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ」 (25. 2. 9) 滋賀精診共催
- 4. 研修会「産業メンタルヘルス研修会」 (24. 9. 29) 滋賀精診共催
- 5. 研修会「第9回児童・思春期関連問題研修会」 (25. 3. 10) 福岡精診共催

(3) 他団体との共催による精神科医療関連の講演会・研修会事業

A: 日医共催事業「平成24年度 医学生・研修医等をサポートするための会」

担当: 女性の精神科医療を考える委員会

実施: 平成25年2月23日(土) 18:30~21:00 京王プラザホテル南館4F なつめ・かつら

参加者数: 14名

基調講演:

①「女性医師のメンタルヘルス～精神科診療所医師からの現状と課題～」

講師: 海老澤佐知江(アルバ・メンタルクリニック院長)

②「臓器移植に関わる精神医学的諸問題」

講師: 西村浩(厚木市民病院 精神科部長)

(4) インターネットを介した精神保健医療に関する知識の普及啓発と心身の健全な育成を図る事業

インターネットを介し、国民へ正しい精神保健医療福祉に関する最新情報の提供を行う。また、地域における精神科医療機関に関する情報提供を行うことで、地域連携の役割を担う。

A: ホームページ運営事業(情報システム委員会)

今年度は公益社団法人移行の年となり、ホームページもリニューアルをした。一般市民、医療関係者への情報発信として、情報提供の場となる。

(5) 精神保健医療に関する情報提供のための学術・情報誌発行事業

精神医療保健福祉分野における最新の研究報告・学術情報・知識の普及、及び地域医療を担う精神科医療関係者の資質向上を目的として、年6回学術・情報誌、学術研究会報告集および、研修会特集号を下記のとおり発行した。

A: 協会誌「ジャーナル」及び「チーム医療地域リハビリテーション研修会報告集」発行

担当: 会誌編集委員会

①ジャーナル: 198号(24. 5. 31) ~203号(25. 3. 31) 年間6巻発行 各号1800部~1850部

②チーム医療地域リハビリテーション研修会(松島大会号)報告集: 25. 3 2000部

③学術研究会(福岡・北九州大会号)報告集: 25. 3 2200部

4. 精神保健医療福祉に関する調査研究に対する助成事業

地域精神保健医療福祉の進歩に寄与すると思われる個人または団体による調査、研究、出版事業などに助成をする。平成24年度は下記の研究に対し助成した。

(1) 故田中健先生からの基金を1回300万円、10年間継続の研究助成事業

A: 田中健記念研究助成事業(平成24年度助成総額300万円)

①精神疾患患者におけるメタボリックシンドロームの病態調査と予防・対策に関する研究

②精神障害者(発達障害者)の就労定期・定着支援を実施する就労支援機関と医療機関の連携の在り方の研究Ⅲ

③うつ病患者の食行動と栄養摂取状態、および症状との関連

④精神科診療所におけるうつ病・不安障害で休職した患者の復職後の長期予後に関する効果研究

⑤石巻市におけるメンタルヘルス活動の満足度調査

⑥ひきこもり、外来ニートに対する精神科クリニックでの多職種チームによる援助の実践的検討

以上、6件

* 平成 25 年度学術研究会にて研究発表後、9 月発行予定のジャーナルに論文掲載。

5. 災害時における精神保健医療福祉に関する支援事業

(1) 被災者、精神科医療機関、保健所等への支援を行いながら、継続支援が必要な人を地域精神保健医療福祉につなげる事業、震災支援者のための援助事業を引き続き行っていく。また、あらゆる災害に対する支援対策について、全国の情報交換し各地で対応及び日精診としての対策を検討した。

A: 震災支援対策全国会議

年 1 回開催。全国各地区での災害に対する取り組みなどを検討し震災に備える。

開催: 平成 24 年 11 月 25 日(日) 11:00~15:00 AP 品川J KL 会議室

参加者数: 47 名

議題: 日精診災害支援対策本部から経過報告と今後の支援
地区協会での災害時の取り組みについての報告
現地報告等

B: 災害支援対策マニュアル冊子作成事業

担当: 地域福祉・デイケア委員会

発行: 「日精診 災害対策マニュアル第 1 版」25.3 2000 部 会員・関連機関へ配布

C: 震災支援者のための電話相談事業(ほっとライン事業班)

平成 23 年 10 月から電話による支援者支援活動を開始。

担当: 日精診災害対策本部 ほっとライン事業班 小林和(精療クリニック)

期間: 平成 24 年 4 月 1 日~平成 25 年 3 月 31 日 月曜~金曜 昼 12 時~20 時まで

相談件数: 143 件(内訳: 支援者関係 53 件、被災者 50 件、無関係 38 件、不明 2 件)

今後も引き続き支援の継続予定。

【 他1 】地域精神保健医療福祉関連機関に対する協力事業

(1) 地域精神保健医療福祉活動の向上を図るため、他の精神科医療機関、各種職能団体、社会復帰施設及び関連団体、精神保健福祉センター及び保健所、精神障害者社会復帰センターなどの諸団体、国、都道府県、市町村など関係行政機関との協力、援助を図り、診療所としてできる活動をさらに広げる。

A: 厚生労働省、行政、日本精神科七者懇談会、日本臨床分科医会代表者会議、精神保健福祉連盟、等での情報交換、及び事業協力を行う。

【 他2 】会誌発行など会員への情報伝達を中心とした事業

(1) 会員間での精神科医療に対する啓発、会員名簿作成により全国の会員の診療所情報提供を行うことで、地域連携に結びつく事業を行う。

A: 会員・各委員会メーリングリスト(情報システム委員会)

担当: 情報システム委員会

メーリングリスト 開設状況: 18 件

①会員ML、

②各委員会ML

(地域福祉デイケア、児童青少年問題関連、産業メンタルヘルス、女性の精神科医療を考える、医療制度対策、医療経済、医療経済・政策合同、会誌編集、情報システム、学術班、)

③理事会ML、

④地区会長会ML、

⑤精神科診療所の将来ビジョンプロジェクト ML

⑥NSSプロジェクトチームML（3件）

B：MEDIFAX等情報発信（医療経済委員会）

担当：医療経済委員会

MEDIFAX情報から日精診の活動につなげる。

（2）機関紙、FAXニュース等の発行により、会員への情報伝達を中心として行い、最新の医療情報を発信し会員の知識向上に貢献。

A：会員向け情報「FAXニュース」発行

担当：会長、副会長、事務局長

発行：FAXニュース101号～107号 7回発行、 全会員への情報提供：3回発行

B：会員向け情報「議事録誌」発行

担当：会誌編集委員会

発行：198号（24.5.31）～203号（25.3.31）年間6回 理事会議事録 発行 会員向け